

南飛驒 ぼうさいかわら版

目次

- P2・下呂市日赤奉仕団が救急競技大会で上位入賞
 P3・保育園児が命を守る・広報受信機に外部ルーター
 P4・おらんとこの自主防災(萩原町羽根区防災隊)

下呂市防災士会 検索

 本誌は下呂市ホームページでも
 ご覧出来になります。

地域づくり・防災講演会 (H29.12月15日 主催下呂市 共催自治会連合会・下呂市防災士会)

日々の暮らしが被害を決める ～災害時に起きる状況を通じて日々の暮らしを見直そう～

岐阜大学地域減災研究センターの小山真紀准教授を講師に迎えて、交流会館の泉ホールで行われ、一般・消防団員・自治会役員・市職員・消防職・防災士など多数が参加しました。

講演は地震と風水害に分けて話されました。また、防災・減災センターの防災士養成講座などに積極的にサポーターとして参加されている、河尻防災士と二村防災士を紹介され地区の防災活動などの相談に声掛けされるよう紹介されました。

☆ 地震災害講話概要

- ・ 阪神淡路大震災での動画による被災者の悲痛な叫びと、予期せぬ別れの深い悲しみ。
- ・ 家族などが犠牲になるとその人が死んだだけでなく、残った人の復旧や復興への意欲が薄れる。
- ・ 対策は、家屋の耐震化と家具などの固定が最優先
犠牲者の80%以上は倒壊家屋・家具の下敷き！



☆ 風水害講話概要

- ・ 地区のリスクや避難タイミングを知っておく(ギリギリの避難は、要援護者を抱えて間に合わない)
- ・ 自分の地域で災害を経験していないから安全とは言えない、下呂市も災害リスクの高い地域である。
- ・ 自然現象が弱くても、人間社会が弱いと被害は大きくなる。(人口減少・高齢化・自治会の衰退など)
- ・ 単独高齢者家庭が多くなり、家族同士でも助け合えない状況になる(自助・共助が出来なくなる)
- ・ 下呂市の場合「全人口-避難行動要支援者数-年少者数」と計算すると、2人で1人の支援になる。

☆ 高山市民防災研究会(岩茸伸一さん)(H27年8月発足・会員33名)

- ・ 市民・企業及び行政と協同して、高山市の防災まちづくりに貢献すること。
- ・ 市民と行政の中間位置から、調査研究・提案で市民の防災意識高揚をはかる。
- ・ 毎月1回以上会員相互のスキルアップ目的の勉強会・意見交換会など。
- ・ 地域のまちづくり協議会への企画運営、出前講座(みんなが実践出来る事業)



☆ NPO防災士なかつがわ会(黒田ところさん)(H23年発足・H28年NPO法人化・会員100名超)

- ・ 「必ず来る災害」に備え行政と協同し防災力の向上と人材育成をはかる。
- ・ 家具転倒防止対策の指導や実施(学童保育施設・児童館・高齢者施設など)
- ・ 避難所運営マニュアル作成参加やアドバイス。(学校長・自治会・消防団・女防)
- ・ 防災紙芝居や体験で、子供達や地域の人達に防災教室・啓発活動を行う。
- ・ 避難所運営マニュアルの作成では、HUGを体験してからは作成委員から積極的な意見が出てきた。



岩茸さん、黒田さんとも同様に「話をする、呼び掛けるだけでは、大人も子供も防災行動に結び付かない。参加や体験などで興味を引きだして、他人事から自分事へと導くと効果がある」と話されました。

下呂市金山日赤奉仕団 岐阜支部第2回救急法競技会で上位入賞 平成30年2月25日

『苦しんでいる人を救いたい思いを集結し、いかなる状況下でも人間の命と・健康・尊厳を守る』

この赤十字社の使命のもとで、それぞれが多忙のなか訓練に励み素晴らしい成績を上げました。岐阜メモリアルセンター「で愛ドーム」で県下から33チーム128名が参加して行われ、金山日赤奉仕団からは2チーム8名が出場しました。大きな声援が飛び交うなか傷病者の発見から救急隊に引き継ぐまでの、一次救命処置では金山チームが日頃の訓練の成果を発揮してみごとに優勝しました。

また、三角布を使った負傷者に応急手当をする部門を含めた総合では5位と7位の好成績でした。



AEDを使った心肺蘇生
何度も繰り返し訓練して、
迅速な動作を覚えます。

大会に向け4ヶ月前から訓練

三角布で怪我の手当
負傷者に励ましの言葉を
掛けながら、素早く正
確な出来栄への訓練。



審査員が注視するなか、
無心になって傷病者に
応急手当をします。



身体で覚えた胸骨圧迫、
1分間に100回～120回。
力強くイチ、ニッ、サン！



一次救命部門で、優勝の表彰
左から、
亀山美保子さん、藤原由美子さん、
中島祐子さん、中島和美さん

赤十字奉仕団とは？

赤十字の使命とする「人間の命を守り、一人ひとりを大切にしたい」の願いのもと、人道的な活動をしようとする人々が集まって結成されたボランティア組織で、岐阜県内すべての市町村に結成されており、1万人以上が活動しています。金山日赤奉仕団は、昭和57年旧金山町時代に結成されて団員数は131名を数えます。年間を通じて市内全域で積極的に活動し、非常食炊き出し訓練、救急法の訓練と普及や、献血事業の協力などを行っています。

保育園児が命を守る訓練（金山町 かなやまこども園 園児130名 職員39名）

下呂市内の小中学校・保育園などは、毎月一回「命を守る訓練」を実施しています。

かなやまこども園の平成30年2月の訓練は、児童と保育士が火災を想定した避難訓練を行いました。全園児が集まって消防士の方から、「火事になったらどうやって逃げるの」と聞かれると「そとににげる」「ハンカチをもってにげる」「口をおさえてにげる」などとこれまでに教わったことを元気に発表していました。全員が煙を充満した教室に入り、ハンカチで口と鼻を覆い姿勢を低くして壁伝いに無事に園庭へ避難しました。園庭では保育士の全員が消火器の訓練を行い、園児達の「〇〇先生ガンバレー」の声援に答えて、大きな声で「火事ダー」と叫びながら火元をめがけて消火していました。

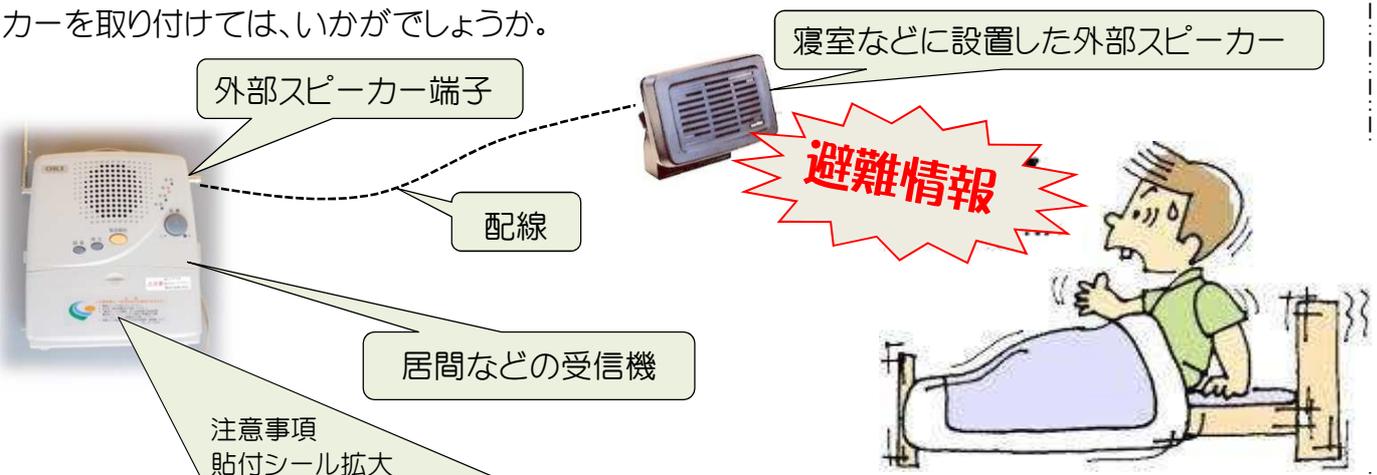
園長先生が園児たちに「今日の訓練で一番大事なことは、皆さんが早く逃げることです。自分の命は誰が守るの！」の質問に、園児達は口々に「しぶんでまもるー」と大きな声で答えていました。



防災行政無線受信機に、外部スピーカーをつけて放送が聞けます！

本器は下呂市に住所を有する世帯や、事業所の申請により無償貸与されています。

各家庭ではほとんどの設置場所は、居間やダイニングと思われますが、その場にいらない場合は放送が良く聞こえないことがあります。また、寝室で就寝中や、強い雨が降っている時に、災害などの緊急放送があっても気づかないで、逃げ遅れる場合などが考えられます。そんなことが無いように外部スピーカーを取り付けては、いかがでしょうか。

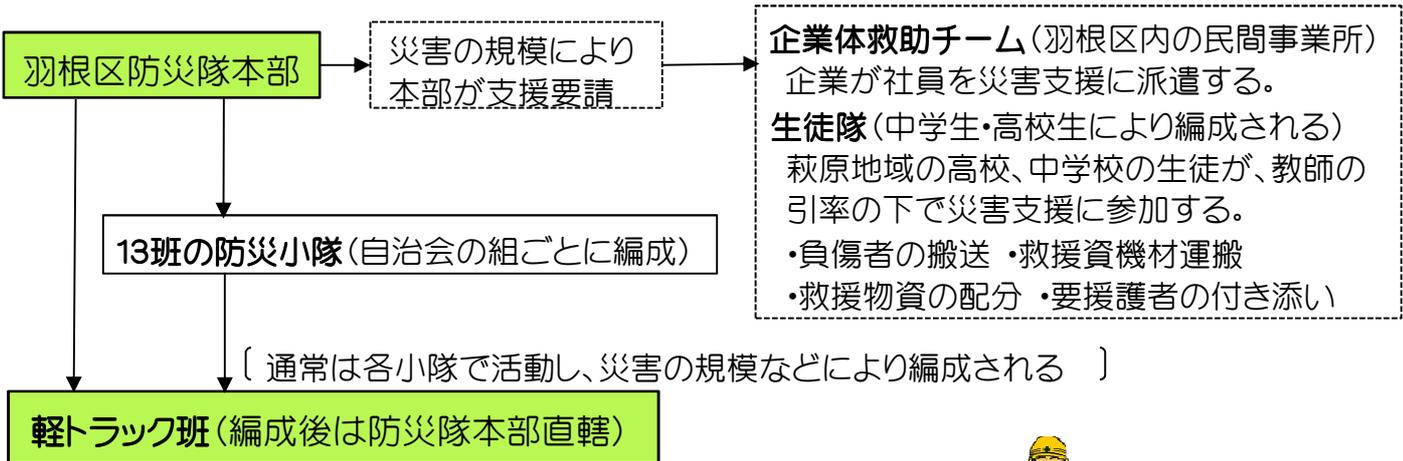


1. 電源スイッチは切らないで下さい。
2. 必ず年1回は乾電池を交換して下さい。
3. 「電池ランプ」点滅時、または放送終了後30秒間警告音（ピーピー…）がする場合は乾電池が消耗しています。すぐに乾電池を交換して下さい。
4. 故障および転居の場合は市役所総務課へ連絡願います。

・ 2台目以降は有償ですが（1台/20,570円）借り受けが出来ます。

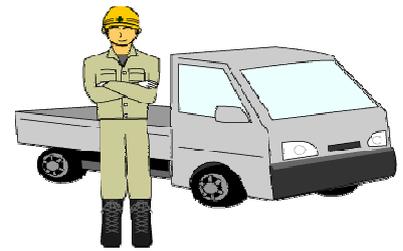
おらんとこの自主防災

（萩原町・羽根区防災隊.軽トラック班）



軽トラック班(編成後は防災隊本部直轄)

〔区内に47台が登録されており大災害時は10台程が使用不能としても、35台程度は使用可能と推測される。〕



☆ 軽トラック班の運用概要

〔小型車輛なので、道路状況が悪くても運行が可能な場合が多いと考えられる。〕

- 負傷者の大量輸送(1台につき)
 座位傷病者6名、添乗救護員2名
 担架傷病者2名、添乗救護員2名
- 資機材の大量輸送
 土のう、土木工具、パネル、食料、燃料、
 テントなどの災害用資機材の輸送。
 災害派遣医療チーム(DMAT)などのヘリコプター空輸後の人員、資機材の輸送支援。
- 災害派遣部隊の受け入れ支援
 ヘリコプターによる災害派遣部隊は、降着後の輸送支援が出来る。人員や装備資機材を災害現場へ迅速に輸送出来る。被災地であっても、最大限の協力を。
- 軽トラックは、高齢者が多く所有しているため高齢化時の貴重な人的防災資源である。
- 軽トラックは下呂市内全域に3000台以上の保有がある、組織的に運用出来れば地元の災害だけでなく、遠隔地災害にも活用出来る。



• 夜間の照明力が得られる。

（編集後記）防災講演会で「私は耳が聞こえないので…」と災害時の不安を訴えた方がいました。

そこで思ったのが自分も重度の難聴である、補聴器無しでは殆ど会話が成立しません。補聴器をしていても距離を置いたり騒がしい所などでは、相手の声は聞こえるが話されることが理解できない事が多々ある。聞き返しも2度以上は相手の気分を害するので、解ったようなふりをしてうなずいていると時折り怪訝な顔をされたり、話がトンチンカンになることが度々である。就寝時補聴器を外している時の地震や、豪雨災害の屋外活動などは補聴器に雨水が入ったら、音の情報が取れず災害弱者であるなあ...と、改めて考えました。また、聴覚障害者は外観では障害に、気付てもらえない場合が多いと聞いています。

